

第204回宮城県都市計画審議会

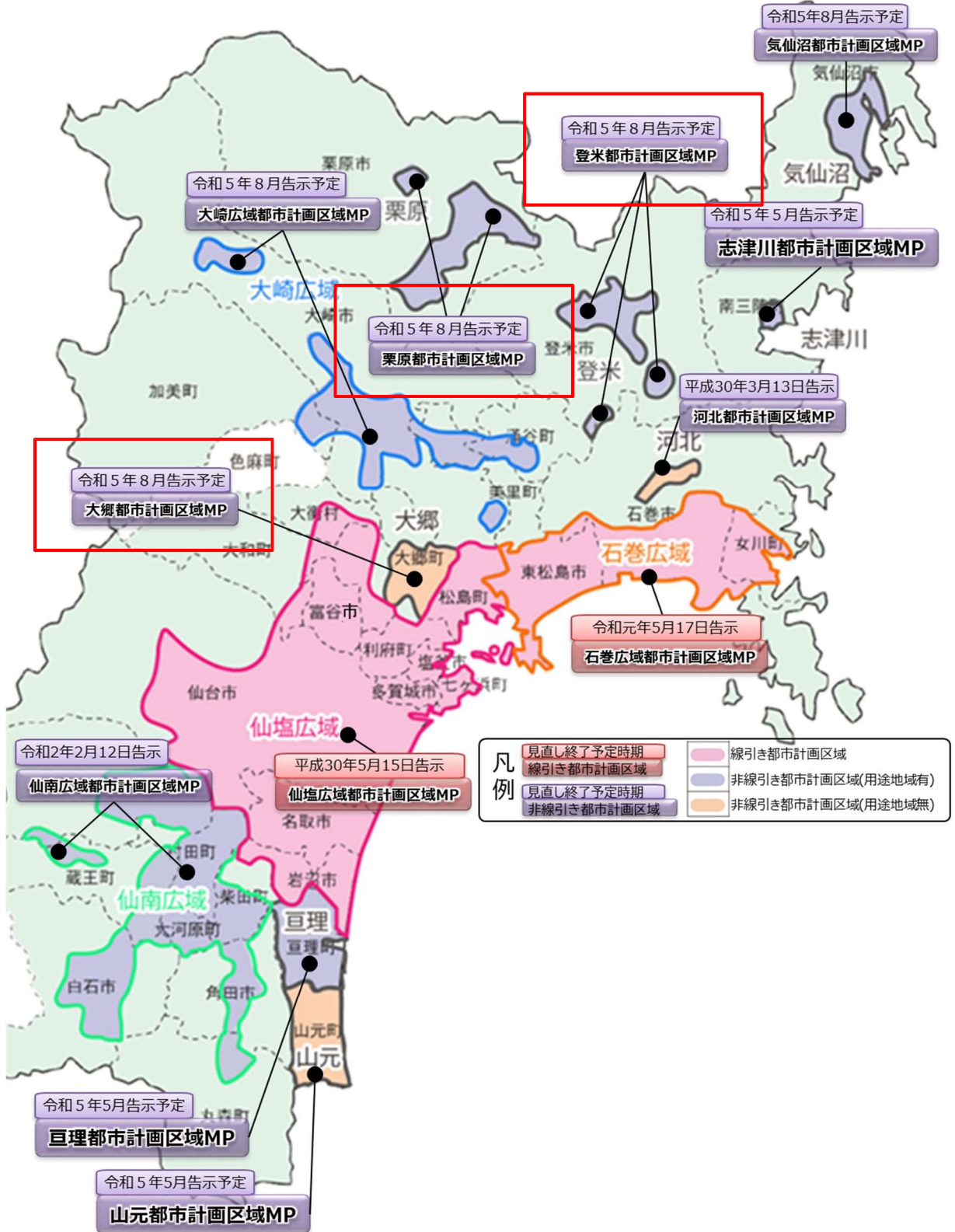
都市計画区域の整備，開発及び保全の方針
の見直しに関する事前報告資料
(登米・栗原・大郷都市計画区域)

令和5年3月

宮城県都市計画課

都市計画区域の整備，開発及び保全の方針の見直しについて

見直し都市計画区域：登米，栗原，大郷



都市計画区域の整備，開発及び保全の方針と他の計画との関係について

新・宮城の将来ビジョン等

宮城県土地利用基本計画 (国土利用計画法第9条)

県内を①都市地域，②農業地域，③森林地域，
④自然公園地域，⑤自然保全地域の五地域に区分

都市計画区域の整備，開発及び保全の方針

(都市計画区域マスタープラン) (都市計画法第6条の2)

当該都市の発展の動向，当該都市計画区域における人口，産業の現状及び将来の見通し等を勘案して，中長期的視点に立った都市の将来像を明確にするとともにその実現に向けての大きな道筋を明らかにする，当該都市計画区域における都市計画の基本的な方向性を示すもの

即する (都市計画法第18条の2)

市町村の建設に関する基本構想

即する (都市計画法第18条の2)

市町村の都市計画に関する基本的な方針

(市町村都市計画マスタープラン) (都市計画法第18条の2)

住民に最も近い立場にある市町村が，その創意工夫の下に住民の意見を反映し，まちづくりの具体性ある将来ビジョンを確立し，地区別のあるべき「まち」の姿をきめ細かくかつ総合的に定め，市町村自ら定める都市計画の方針として定めるもの

立地適正化計画 (都市再生特別措置法第81条)

都市全体の構造を見直し，コンパクトなまちづくりとこれに連携した公共交通のネットワークを形成するため，都市機能を誘導する区域を設定するとともに，これらを誘導するための施策等を記載

個々の都市計画決定

区域区分，用途地域，地区計画，
都市施設，市街地開発事業など

都市計画事業

都市計画区域の整備，開発及び保全の方針の構成

1 都市計画の目標

人口の現況，産業規模の現況及び将来の見通し

2 区域区分の決定の有無及び区域区分を定める際の方針

3 主要な都市計画の決定の方針

土地利用に関する主要な都市計画

都市施設の整備に関する主要な都市計画

市街地開発事業に係る主要な都市計画

自然的環境の整備又は保全に関する都市計画

「都市計画運用指針(国土交通省)」

都市計画区域の整備，開発及び保全の方針の見直しスケジュールについて

● 全体スケジュール

| 区域 | | 年度 | | | | | | | | | | | | | | |
|-------------|--|-----|-----|---------------|------------|------------|-----|-----|-----------|----|---------------|------------|------------|----|---|--|
| | | H24 | H25 | H26 | H27 | H28 | H29 | H30 | H31 R1 | R2 | R3 | R4 | R5 | R6 | | |
| 県 北 部 | 大崎広域都市計画 栗原都市計画 登米都市計画 大郷都市計画 (非線引き) | | | 第2回見直し | | | | ● | | | 第3回見直し | | | | | |
| | | | | 現況調査・ 解析評価 | 将来構想 検討 | 法定図書 作成 | | | | | 現況調査・ 解析評価 | 将来構想 検討 | 法定図書 作成 | | ● | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | |

● 今後のスケジュール

～令和5年1月 関係者事前協議，住民説明会等

令和5年2月 国土交通省事前協議

令和5年3月 県都市計画審議会 事前報告 ← 本日

令和5年4月 市町へ意見聴取

令和5年5月 案の縦覧

令和5年6月 都市計画審議会 附議

令和5年7月 国土交通省本協議

令和5年8月 変更告示

都市計画区域の都市構造の特徴について

○ 栗原・登米都市計画区域

● 県北地区を取り巻く背景

豊かな自然環境と地域の原風景

宮城県北部に位置する県北地区は、栗駒国立公園や三陸復興国立公園の山々や、ラムサール条約湿地に指定されている伊豆沼・内沼や北上川・鳴瀬川等の湖沼・河川の水辺等、豊富な優れた自然環境に囲まれている。

また本地区は、世界農業遺産に認定されている大崎耕土をはじめとする広大な平地を利用した稲作等の農林水産業が基幹産業の一つとなっており、これらが地域の原風景を醸し出している。



大崎耕土



栗駒国立公園

良好な交通条件

東北縦貫自動車道や三陸縦貫自動車道、みやぎ県北高速幹線道路、JR 東北新幹線の国土軸を形成する広域的な高速交通体系の他、国道4号やJR 東北本線等の交通ネットワークが発達し、産業施設等の集積が図られている。

また、大崎市古川地域は商業・業務施設の集積がみられる等県北地区の中心核を担っており、築館地域・迫地域等は各地域の生活に必要な商業業務等の都市機能が集積している。



みやぎ県北高速幹線道路

復興支援道路として東北縦貫自動車道と三陸縦貫自動車道を結び、栗原圏域と登米圏域の交流や連携を強化する地域高規格道路である。

被災地の復興支援や災害時における救援物資輸送等を担う。

● 都市づくりにおける課題

将来の人口推移

近年は人口減少及び超高齢社会が進行し、各種産業の活力が低下すると共に、地域の中心地等では、商業業務機能の郊外部移転等による商店街の空洞化、スポンジ化が進行しており、地域の活性化、交流人口の増加等を図ることが重要な課題である。

今後、効率的な都市運営体制を構築するため、中心市街地への都市機能の集約化、人口維持や交流人口拡大の推進と共に、無秩序な市街地の拡大抑制が必要である。

安全で安心なまちづくり

当地区では、平成 20 年の岩手・宮城内陸地震以降の東日本大震災、関東・東北豪雨、令和元年東日本台風等を踏まえ、防災・減災意識の高まりとともに、安全で安心なまちづくりへの対応が求められている。

また、建築物の耐震性向上と合わせて、避難・救援路となる幹線道路や避難場所となる公園、緑地等の都市基盤整備の推進や、災害リスクの高い地域の市街化抑制の推進が求められている。

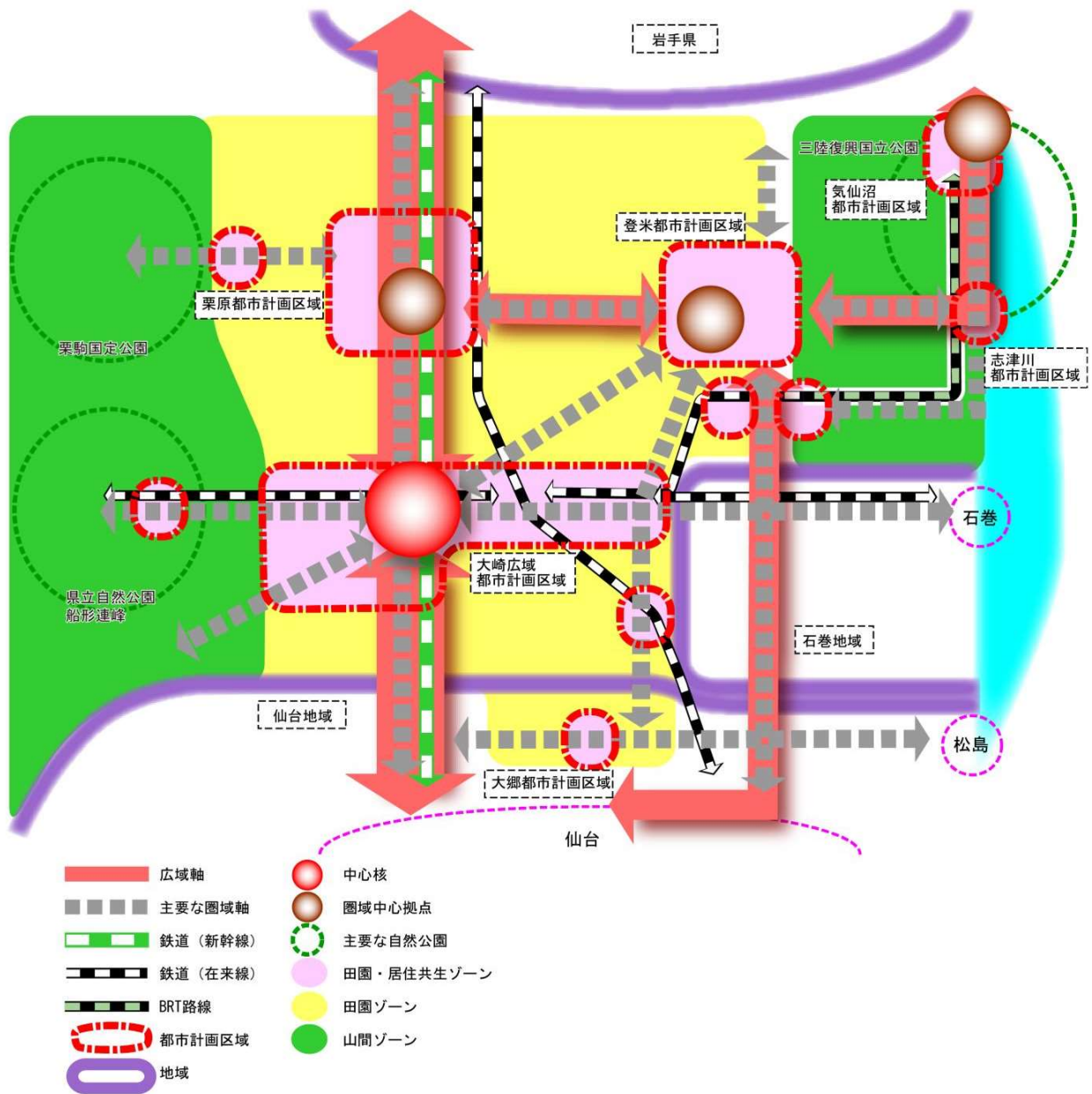
さらに、地球温暖化対策としての再生可能エネルギーの導入等、環境保全への関心が高まっている。

● 都市構造の特徴

大崎広域・栗原・登米都市計画区域は、平成 17 年度の広域合併前の旧市町村の中心地にすでに拠点形成されているという特徴があることから、現在の街の中心拠点に加え、旧市町村の拠点もマスタープランに位置づけ、それぞれの拠点の特徴を活かしたまちづくりを進めることが重要である。

また、大崎市、栗原市は「立地適正化計画」を策定・公表し、「都市機能誘導区域」と「居住誘導区域」を定め、「集約型市街地」の形成に向けたまちづくりを推進している。登米市においても、早期の策定・公表を目指し、都市計画区域外の旧町の拠点を立地適正化計画に位置づけるなど、具体的な作業を進めている。

□ 県北地区の将来都市構造



○ 大郷都市計画区域

● 大郷町を取り巻く背景

大郷町は宮城県のほぼ中央に位置し、町の中央部には、東西方向に吉田川が流れ、その流域には豊かな田園地帯が広がっている。町の東西方向及び南北方向には県の主要な幹線道路である（主）大和松島線及び（主）利府松山線が通り、その交差部には行政や商業等の都市機能の拠点が形成されており、この拠点を含めた吉田川以南の一部に大郷都市計画区域が指定されている。

● 都市づくりにおける課題

大郷町は、令和元年東日本台風により吉田川流域で大きな被害を受けたことから河川堤防の整備等により災害に強いまちづくりが進められており、特に甚大な被害を受けた中粕川地区を対象に復興事業が進められている。

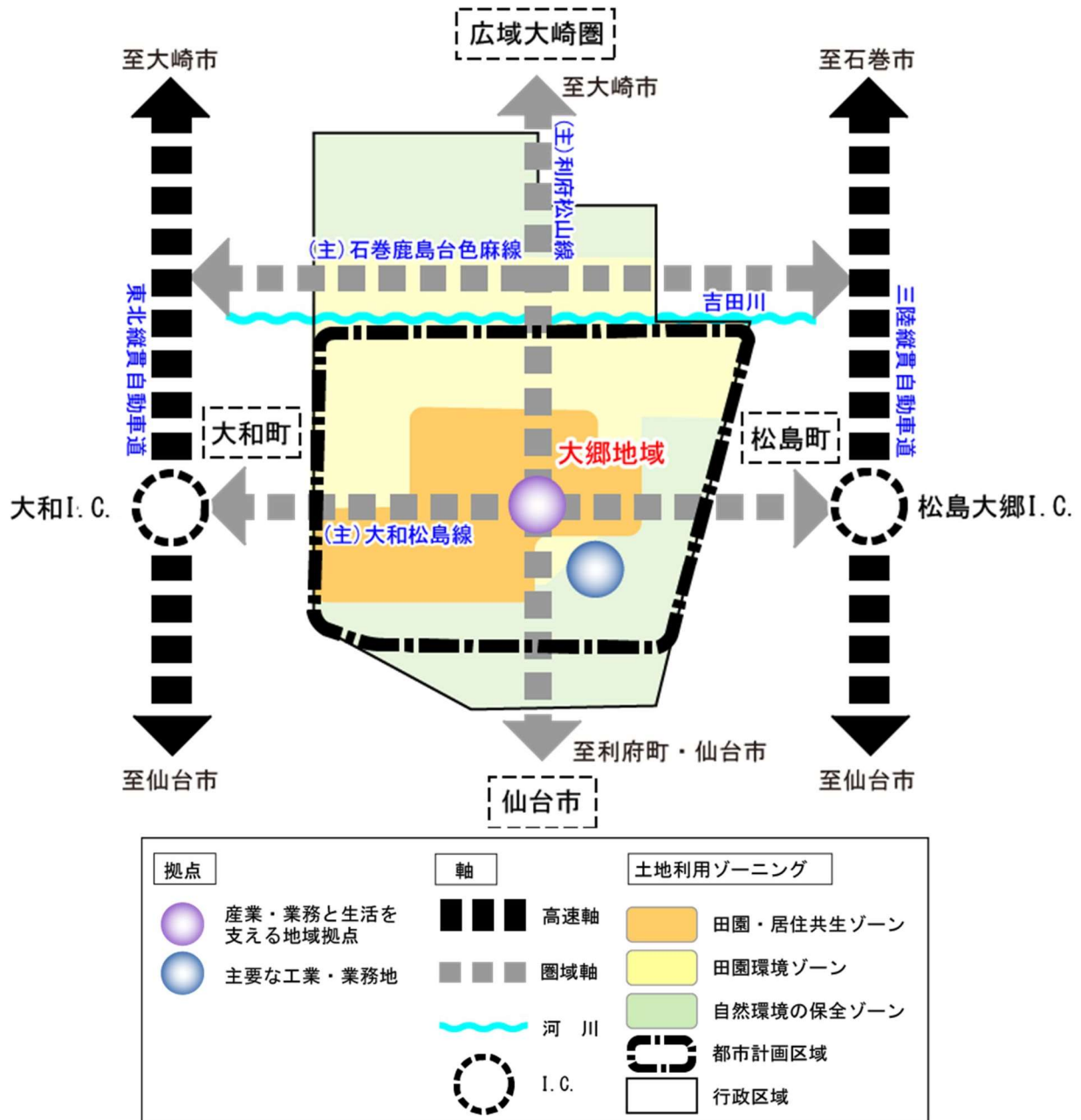
これらを踏まえ、今後は、既存の広域交通網を活かしつつ、吉田川流域の田園地帯と共生した暮らしを維持し、併せて、災害に強い社会基盤の整備と自然災害に備えた土地利用を図り、安心して暮らせるまちづくりを推進する。

● 都市構造の特徴

（主）大和松島線及び（主）利府松山線により骨格が形成され、県北地区の南端に接する広域仙台都市圏に位置している。東西軸となる（主）大和松島線は、東北縦貫自動車道大和 I.C.と三陸縦貫自動車道松島大郷 I.C.へ直接的にアクセスしており、良好な位置的条件、広域的な交通条件を活かした都市機能の計画的な整備誘導とその一方で、吉田川等の流域に広がる田園地帯が形成された環境と共生するエリア形成を目指す。

（主）大和松島線沿いに形成される中心地は、生活や都市活動の中心となる地域拠点を形成する。また、生活や地域の活性化・魅力の向上に資する各種の都市機能の集積を図った集約型の市街地を形成する。

□大郷都市計画区域の将来都市構造



自然災害に対する対策事業の位置づけ予定状況

県北部地区は令和元年東日本台風や令和4年7月の豪雨等の被害を受けており、今回見直しを予定しているマスタープランにおいても、今後10年以内に実施予定の主要な事業に河川改修を位置づけ、安心安全なまちづくりを推進する計画としている。

【栗原都市計画区域】

- 北上川水系迫川 流域治水対策河川事業（河道掘削・築堤） 栗原市志波姫刈敷袋～一迫柳目
- 北上川水系夏川 流域治水対策河川事業（河道掘削・築堤） 登米市石越町北郷
- 北上川水系照越川 河川局部改良事業（堤防補強） 栗原市築館横須賀曾内
- 北上川水系荒川 流域治水対策河川事業（築堤） 栗原市築館萩沢

【登米都市計画区域】

- 北上川水系南沢川 大規模特定河川事業（河道掘削） 登米市津山町柳津～津山町横山
- 北上川水系長沼川 大規模特定河川事業（放水路整備） 登米市南方町寺袋～佐沼南元丁
- 北上川水系夏川 流域治水対策河川事業（河道掘削・築堤） 登米市石越町北郷
- 北上川 日根牛地区堤防整備事業 登米市登米町日根牛

【大郷都市計画区域】

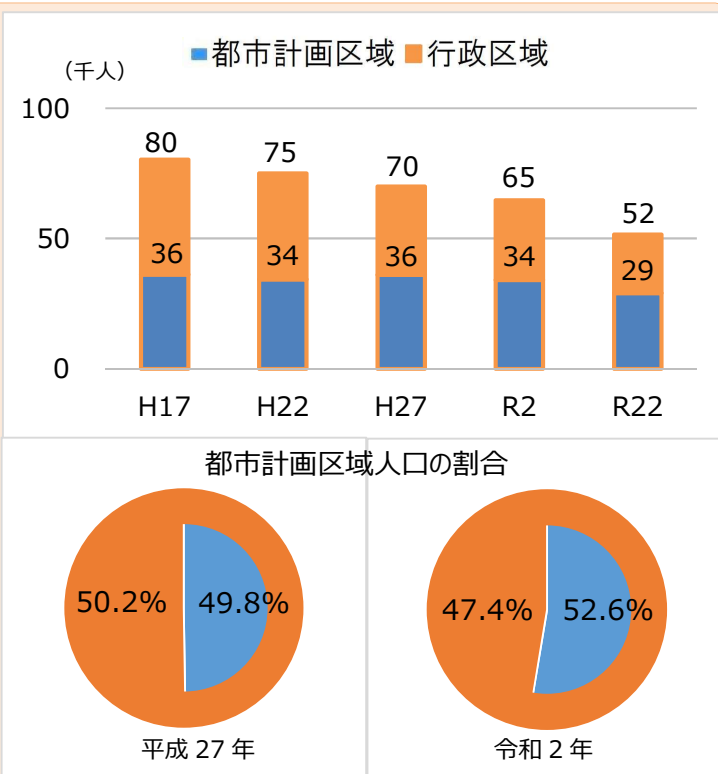
- 鳴瀬川水系味明川 河川改修事業（築堤・護岸・堰） 大郷町山崎堰場～ 未明熊野
- 吉田川 河川大規模災害関連事業 大郷町

栗原都市計画区域の見通し

◇人口の見通し

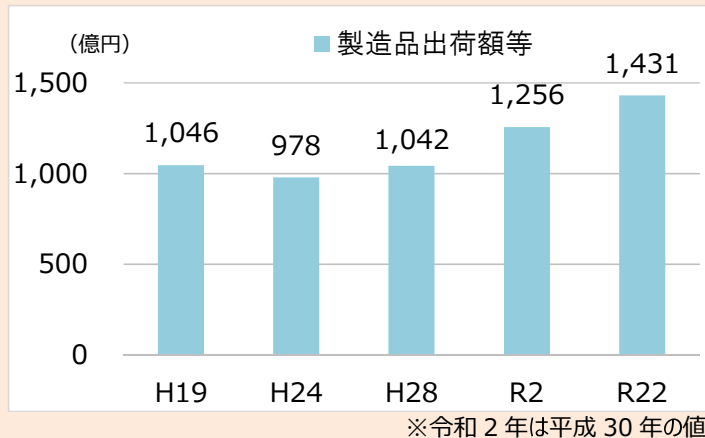
栗原の行政区域全体の人口は減少傾向にあり、令和2年から令和22年までに約20%の人口減少が見込まれる。しかし、令和2年までの都市計画区域人口は横ばい傾向にある。

行政区域人口に対する都市計画人口の割合は、平成27年と比較して令和2年が高くなっている。



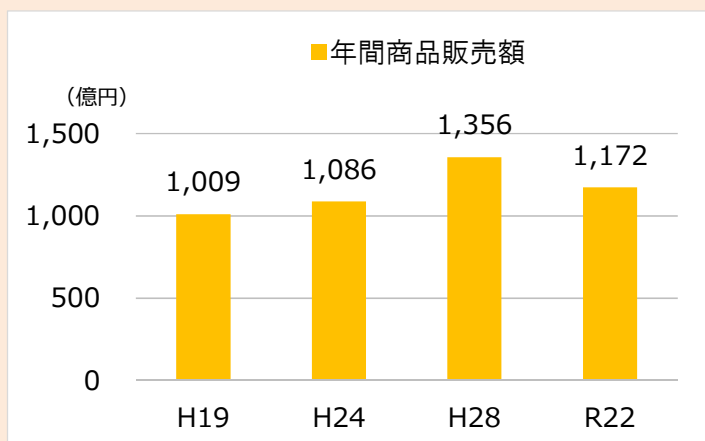
◇工業の見通し

現状値は横ばい傾向を示しているが、令和22年には1,431億円への増加が見込まれる。



◇商業の見通し

現状値は横ばい傾向を示しているが、令和22年には1,172億円への減少が見込まれる。

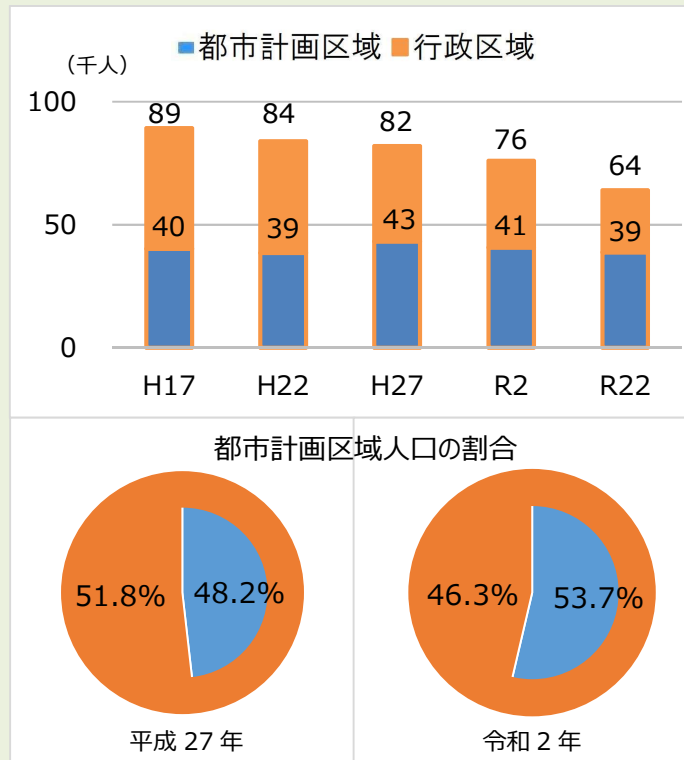


登米都市計画区域の見通し

◇人口の見通し

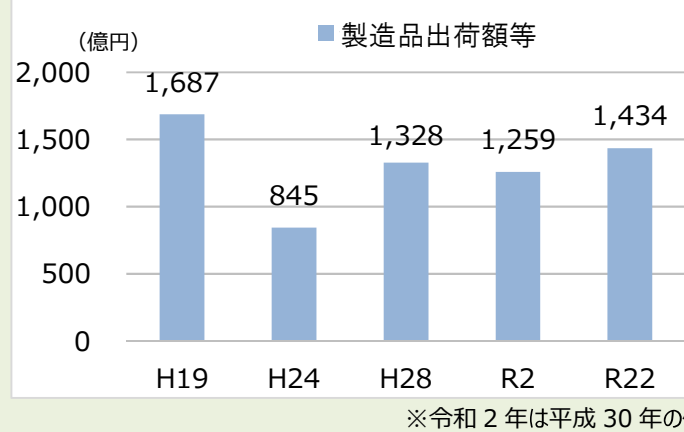
登米の行政区域全体の人口は減少傾向にあり、令和2年から令和22年までに約15%の人口減少が見込まれる。しかし、令和2年までの都市計画区域人口は横ばい傾向にある。

行政区域人口に対する都市計画人口の割合は、平成27年と比較して令和2年が高くなっている。



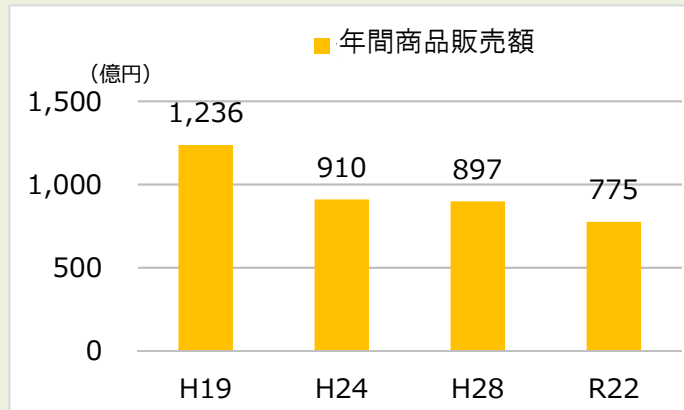
◇工業の見通し

近年は横ばい傾向であり、令和22年には1,434億円への増加が見込まれる。



◇商業の見通し

減少傾向を示しており、令和22年には775億円への減少が見込まれる。

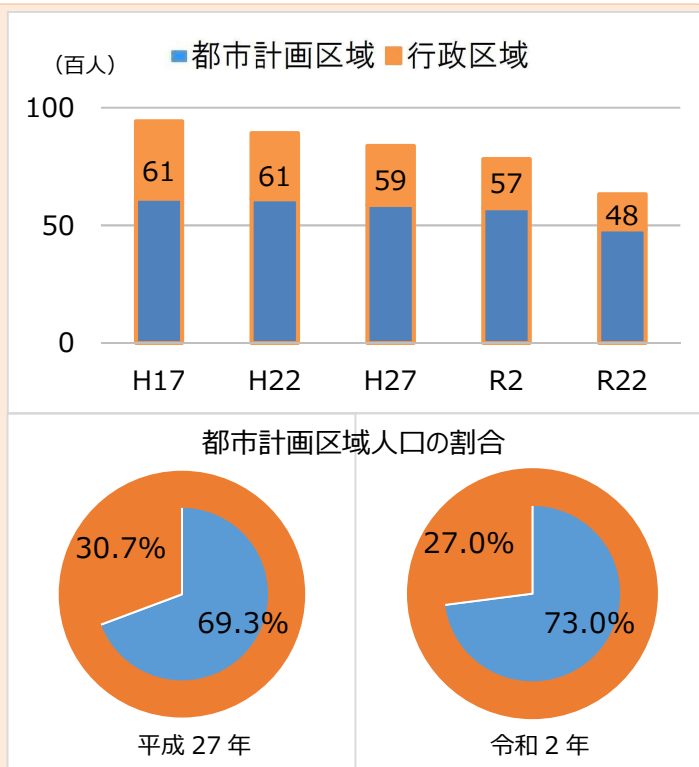


大郷都市計画区域の見通し

◇人口の見通し

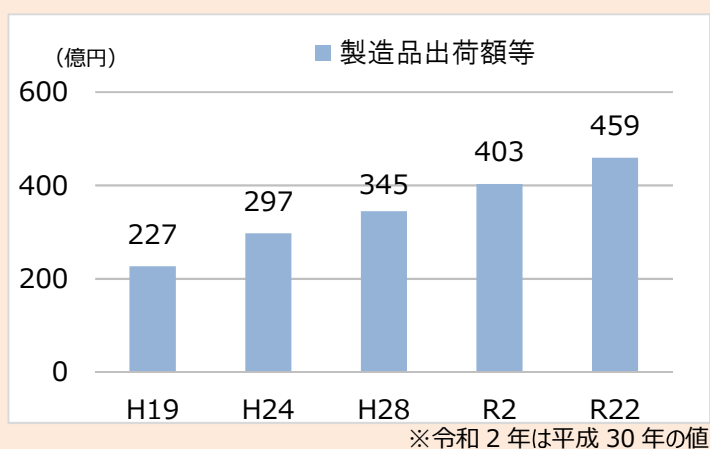
大郷の行政区域全体の人口は減少傾向にあり、令和2年から令和22年までに約19%の人口減少が見込まれる。しかし、令和2年までの都市計画区域人口は横ばい傾向にある。

行政区域人口に対する都市計画人口の割合は、平成27年と比較して令和2年が高くなっている。



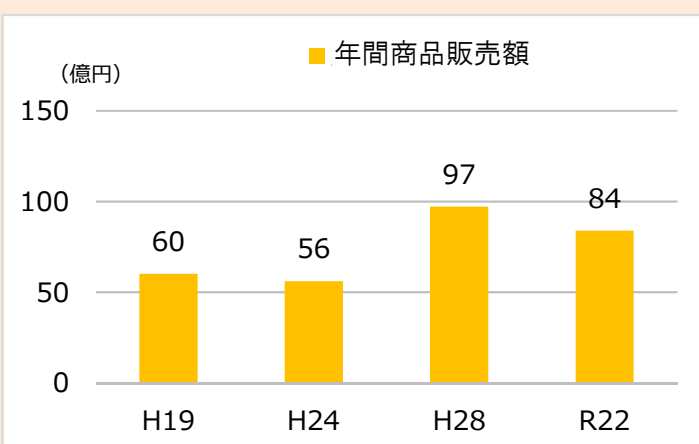
◇工業の見通し

微増の傾向にあり、令和22年には459億円への増加が見込まれる。



◇商業の見通し

近年は増加の傾向にあるが、令和22年には84億円への減少が見込まれる。



見直しの目的

- 人口減少及び超高齢社会の進行に対応した「集約型都市構造」の形成と各地域拠点間を結ぶ交通ネットワークの充実
- 「新・みやぎの将来ビジョン」に掲げる「富県宮城」の実現
- 激甚化する災害に対応したまちづくりを推進

見直しの方針

【栗原都市計画区域】

- 質の高い暮らしのための地域の生活基盤の向上と田園都市構造の形成
- 新たな中核機能地域の形成と活性化の促進
- 優れた自然環境と共生する区域づくり
- 広域圏への定住を促進する産業の振興

【登米都市計画区域】

- 集約化された拠点の形成と都市構造の形成
- 中心市街地の機能強化と活性化の促進
- 優れた自然環境と共生する区域づくり
- 広域高速交通の整備効果と地域資源を活かした産業の振興

【大郷都市計画区域】

- 周辺広域圏と連携した地域づくり
- 地域特性を活かした産業の振興
- ゆとりと安らぎのある生活環境の形成